

令和 8（2026）年度

学習院大学大学院 博士前期課程（春期）

人文科学研究科・ドイツ語ドイツ文学専攻

入学試験問題

9：00～10：00 外国語

10：20～12：20 ドイツ語及び専門知識

※太線わく内は必ず記入してください。

I. 次の文章を日本語に訳しなさい。

(出典：Mika Gustavson „Ein Dialog der Unterschiede: Was unterscheidet Film von Literatur?“ より)

[illegible]

※太線わく内は必ず記入してください。

解答欄

※太線わく内は必ず記入してください。

解答欄

※太線わく内は必ず記入してください。

IV. 次の語句から合計 3 項目を選び、例を示しながら説明しなさい。[] 内には選択した項目の算用数字を記すこと。

1. Analytische Tempusform
2. Autofiktion
3. Erstspracherwerb
4. Ingeborg Bachmann
5. Kindertransport
6. Kongruenz
7. Luftbrücke
8. Nord Stream
9. Regenbogenfamilie
10. Thomas Mann

[]

[illegible]

[]

[]

令和 8（2026）年度 人文科学研究科 ドイツ文学専攻 博士前期課程

一般入試（春期）

試験科目：ドイツ語及び専門知識

◆出題の意図

I

中級レベルのドイツ語の文章を正しく読み解き、日本語で表現する能力があるかどうかを判断するための問題。文章の全体の趣旨が正しく把握できているか、訳文の文法構造を適切に理解しているか、それぞれの語句が的確に訳しているかが評価の主なポイントとなる。

II

中級レベルの比較的長いドイツ語の文章の趣旨を正しく読み解き、その要約を日本語で表現する能力があるかどうかを判断するための問題。ドイツ語の総合的な学力に基づいて、それぞれの語句レベルでの読解にとどまらず、文章全体の論旨展開を適切に把握できているかが評価の主なポイントとなる。

III

新書レベルの日本語の文章をドイツ語で適切に表現する能力があるかどうかを判断するための問題。それぞれの語句が適切に訳しているか、文法規則にのっとった文章を書けているかが評価の主なポイントとなる。

IV

ドイツ文学、文化学、言語学、現代地域事情の分野で基礎的と言える諸概念について、それぞれ概要を適切な日本語で表現できるかを判断するための問題。所定の分量に収まる文章で、要点を簡潔に記述できているかが評価の主なポイントとなる。

◆解答又は解答例

I

[Redacted answer for I]

II

[Redacted answer for II]

III



IV

1. Analytische Tempusform

時制を動詞の語幹変化や接辞付与のみから成る単純形式（統合形式）ではなく、助動詞と本動詞など2つ以上の動詞の結合によって表す形式を指す。ドイツ語では、haben/sein＋過去分詞による完了形（ich tanze/ich habe getanzt, ich gehe/ich bin gegangen）や、werden＋不定詞による未来形（ich lese/ich werde lesen）が2つが動詞の結合によるもので、未来完了形（ich werde gelesen haben）は3つの動詞の結合で作られている。ただし未来形については、時制というよりも話し手の推量や意志を表す形式とみなす立場もあり、その地位をめぐって議論がある。

2. Autofiktion

自伝的なもの（Autobiographie）と虚構的なもの（Fiktion）があわさった文学ジャンル、あるいは自伝的な要素に基づき、ありえたかもしれない展開を語るフィクションのことを言う。多くの場合、著者と同名の語り手が登場する。ドイツ語圏文学作品としては、W・G・ゼーバルトの『アウステルリッツ』や、ナターシャ・ヴォーディンの『彼女はマリウポリからやってきた』などが挙げられる。

3. Erstspracherwerb

第一言語習得とは、人が幼少期に周囲の言語環境との相互作用の中で、第一言語（母語）の体系を自然に獲得していく過程を指す。通常、明示的な文法指導を受けることなく進行し、音韻・語彙・統語・語用論など複数の領域が相互に関連しながら段階的に発達する点に特徴がある。これに対し第二言語習得は、学校教育などにおいて明示的指導を伴うことが多いが、移住環境下での自然習得のように、必ずしも指導を前提としない場合もある。近年の研究では、入力の質と量、相互行為、認知的制約、臨界期仮説の再検討などが重視され、第一言語習得は生得的能力と使用基盤的学習の相互作用として捉えられている。

4. Ingeborg Bachmann

オーストリア出身の戦後のドイツ語圏文学の代表的な詩人、作家。戦後の新しいドイツ語圏の文学潮流である47年グループの賞を受けてデビュー。当初は詩を中心に評価されていたが、1980年代以降フェミニズム文学研究が盛んになると、家父長制と言語をテーマとした散文作品（『三十歳』『マーリナ』など）が注目されるようになる。現在、バッハマンにちなんで新人作家に与えられる文学賞「バッハマン賞」が設けられている。

5. Kindertransport

1938年11月から1939年9月にかけて、ナチスドイツ支配地域から、イギリスその他の国々へ1万人以上のユダヤ人の子供たちを避難・疎開させた国際的なプログラム。この疎開が実施された直接の引き金は1938年11月9日のクリスタルナハト（水晶の夜）と言われている。1939年9月のナチスドイツのポーランド侵攻による第二次世界大戦勃発により終了。回想録・ルポタージュ・小説・詩などの「キンダートランスポート文学」も数多い。

6. Kongruenz

文中の複数の要素が、人称・数・性・格などの文法的特徴を共有することによって形式的に一致する現象を指す。ドイツ語では、Ich gehe./Wir gehen. のように主語と動詞が人称・数で一致するほか、der gute Wein, die guten Bücher のように名詞と冠詞・形容詞が性・数・格に応じて一致する例が典型である。性の一致については、ein glücklicher Mann/eine glückliche Frau のように付加語形容詞と名詞の間では生じるが、Er ist glücklich./Sie ist glücklich. のように主語と述語形容詞の間では生じない点が特徴である。

7. Luftbrücke

大規模な空輸作戦や、外国に取り残された自国民を帰国させるためのチャーター機輸送などを指す。歴史的には、東西冷戦初期のソ連による「ベルリン封鎖」にて陸の孤島だった西ベルリン対し、米英仏軍が約1年間にわたり空路で食料や燃料を輸送した作戦がある。近年では、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、国と国とを結ぶ航空便が完全に停止してしまったときに、ドイツに帰国できずにいたドイツ人を帰国させた大規模支援もあった。

8. Nord Stream

バルト海の下をロシアからドイツまで走る海底天然ガス・パイプラインのシステム。輸送網1と2があり、それぞれ2本ずつパイプが通っていた。2022年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻に対する欧米諸国の制裁に反発し、ロシアはNord Stream 1によるガス供給を停止。Nord Stream 2はドイツ側の計画停止により稼働していなかった。加えて、破壊工作と思われる爆破事件により、現在は4本のうち3本が破損している。

9. Regenbogenfamilie

直訳すると「虹色家族」。LGBTの人たちが作る新しい形の家族のこと。同性パートナー同士の両親と子ども、レズビアンやゲイのシングルマザー・ファザーなど、いろいろな形の家族がある。虹色（レインボーフラッグ）は、LGBTの人たちの尊厳を象徴しているもので、性的指向も性自認も家族の形も、決まった色では表せない十人十色の虹色グラデーションとして用いられている。

10. Thomas Mann

20世紀を代表するドイツの作家。1929年にノーベル文学賞を受賞。初期の作品としては、ハンザ都市の四世代の商家の物語『ブッデンブルック家のひとびと』や、市民的なものと芸術家的なものあいだで葛藤する『トニオ・クレーガー』などが知られる。第一次大戦後にはヨーロッパ的文脈の中から生を問う『魔の山』を執筆している。ナチ時代にはドイツからアメリカに亡命し、旧約聖書から題材をとった『ヨーゼフと兄弟たち』を、第二次世界大戦後にはナチズムとドイツ文化の問題に取り組んだ『ファウスト博士』を発表している。